

芹ヶ谷公園“芸術の杜”スタートアップミーティング 議事概要	
日時	2019年8月24日(土) 10:30~12:00
場所	町田市立国際版画美術館講堂
町田市 出席者	企画政策課 3名 公園緑地課 5名 文化振興課 3名
参加者	54名

【意見交換要旨】

参加者：5～60年前はホテルがたくさん飛んでおり、現在の状況とは違っていた。現在は、当時小さかった木が大きく育った状況。今はその大きな木が伐採されている。これは近隣住民に説明は行ったか。また、以前までの公園の印象が思い出されないのは悲しい。スタートアップミーティングをやる前にみんなの意見を聞いたほうがよかったのでは。

町田市：市民の方への説明については、2014年から基本計画の策定にあたり、市民の方と学識の方で構成された懇談会を実施。ご意見を聞く中で、緑が成長し、緑の豊かさがある反面、暗く防犯上危険という声もいただいていた。以前まで樹木の剪定も上手くできておらず、現在実施ができた状況。樹木もこれから、成長して広場に緑が増え、光りもあたるようになるので、ご理解いただきたい。

参加者：芹ヶ谷公園の近くに住んでおり、公園で四季折々を感じている。自然豊かで素晴らしい公園である。私は、芸術の杜のコンセプトがわからない。この程度の公園であれば、基本的なコンセプトは市民のための憩いの場所であるべきだが、町田以外の方に来てもらうようにしたいと私には聞こえる。遠隔地から人を呼ぶ必要があるのか。コスト面からも工芸美術館建設には以前から反対をしており、建設にあたり樹木も多く伐採してしまう。工芸美術館整備の現状について教えてほしい。

町田市：町田市は主な産業が商業であり、中心市街地は大事な場所である。来街者が公園と中心市街地を回遊することにより、中心市街地の来街者を増やしたいと考えている。

工芸美術館は公共施設の再編である。老朽化のため閉鎖せざるを得なかった博物館の貴重な資源を活かしたいと考えている。

参加者：版画美術館と工芸美術館で人が回遊するほどの魅力があるとお考えか。後ほどシミュレーションは行うのか。市民に提示していただけるのか。

町田市：工芸美術館を見てもらうだけでなく、公園全体で考えたときに、美術館があることのメリットや、子どもや体験という要素、美術館に来た人が自然と公園に遊びに入っていくとか、公園に来た人が気が付いたら美術館にいるとか、公園全体のプログラムに参加するとか、大きな考え方をしないとこれから価値を出せない。美術館のみの話ではなく、公園全体としてよりよいものを作っていく。設計の考え方やそれがどういった効果を生み出す等、人数を出すのは難しいがしっかりと検討していきたい。

参加者：噴水近くにトイレができたことにより、近くの彫刻とも被ってしまい、景観としての価値が落ちてしまった。設計図ではなく、実際に見た景観はわかりづらい。ワークショップでアイデアを出すのは良いが、設計するときは慎重に行い、簡単に壊すことのできないものを作るときは気を付けていただきたい。今回の説明を受けスケジュールが拙速に見えるが、来年度予算など今後のプロセスについて教えてほしい。

町田市：景観については、重々検討していきたいと思います。プロセスについては、アイデアの中でできることを少し小さなものでも、何か起こしていくことで、少しずつ公園の姿が変わっていくのを実感しながら進めていけたらいいなと思っている。芹ヶ谷のアート文化祭は一つのアイデアとして、そのまま作るわけではない。予算はすべて行政ではなく、すでに活動されている方々の力を連携したり、また新しい主体を見つけながら進めていきたい。それは今後行う「面白がる会」も含めて、継続的に進んでいく。

参加者：湧水の管理は東京都の所管だが、災害時も東京都の所管である。町田市で管理は出来ないのか。ものすごい量の水が放水されている状況。そこにホタルがいるため、ホタルが消えてしまうことに不安がある。また、モノレールの駅との関係はどうなるのか。

町田市：ホタルについては公園の貴重な資源と考えている。整備を進める中でも生息できる環境を守っていきたくて考えている。水の権利の状況は確認のうえ、よろしければ改めて回答させていただければと思います。浄水場については、災害時に東京都が応急給水施設とすることを承知してい

る。また、湧水は浄水場以外の場所からも出ている。

モノレールについてはまだルートが確定していない。駅位置も確定していない。ただ、モノレールの導入路線として、原町田大通りは延伸を予定しており、それを念頭に整備を考えていく。

参加者：博物館が移転して、版画美術館のそばにできると聞いた。良い公共施設計画をやると思った。今後外から人を呼ぶのに、すでにある博物館という財産を利用するのはとても良いと思った。芸術の杜になるというのをちゃんと聞いたのは初めて。移転計画についての説明会は以前あったのか。博物館の移転計画の前提となる情報があればいただきたい。また、町田駅から美術館までの道のりは人が通るような道ではない。少し離れたところまで人を誘導する美術館には、世田谷美術館がある。住宅街を抜けて、砧公園に行く道を通らせる。整備前から地域の方がきれいにしつつあって、美術館までの道が楽しくなっている。そういったルートを考えてほしい。「美術館に行くだけのルート」と「公園の中を通り抜ける公園を楽しむルート」を案内するような表示にしてほしいと思う。

町田市：博物館を移設するにあたり、検討を進め、いくつかの候補地から芹ヶ谷公園になった。その中で、版画美術館の隣あたりに整備するということで、2015年当時設計をすすめた。財政の面や、子供や体験といったコンセプトの面でもう一度検討している。版画美術館と工芸美術館の連携も考えている。他のご意見はしっかりと検討していきたい。博物館のあり方について検討した資料をホームページ上で公開しているので参考にしてほしい。

参加者：駅から近く、自然を楽しむには優れた立地である。自然は残してほしい。人を呼ぶために、安易に遊具を置くことはいかがなものか。この辺のことは、周辺住民に説明してほしい。中心市街地との回遊性もわかるが道路も歩行者が歩けるような場所を整備してほしい。

参加者：博物館の収蔵品については、それぞれ分野が全く異なるものなので、どのように統一していくかが疑問。現在の収蔵品はそこまで価値があるとは思えないので、売却してもいいのではないか。収蔵品よりキュレーターのアイデアに期待したい。

参加者：版画美術館は暗く、入りたくない。今日から一つだけでも変えると違ってくる。税金でやっているのだから市民が喜んで入れるというのが第一条件である。吉祥寺のそばに住んでいるが、吉祥寺が好かれる理由は近くに井の頭公園があるからである。散策ができる。芹ヶ谷公園は散策しようと思わない。通り過ぎるだけ。芹ヶ谷公園は広場が365日土のままである。梅園や京都の庭園のようなものを造れば一か月間は人が来る。財源も新たに生まれ、散策をすることもできる。箱ものを作るわけではないからお金もそれほどかからない。反対する人もいないし、みんなが喜ぶのではないか。